

## 1 取組名称

イングリッシュディベートサロンの開設  
—— 英語での議論に慣れる場の提供 ——

## 2 取組組織等

システムデザイン学部・インダストリアルコース

## 3 取組実施代表者名

システムデザイン学部・教授 笠原 信一

## 4 取組年度期間

平成26年度

## 5 取組の概要

学生が国際学会発表や留学など国際的な場に進出するためには、日頃から英語で考え英語で意見を述べることに慣れておくことが不可欠である。そこで、英語による発表・議論を通して、国際感覚に慣れ親しむ場として、イングリッシュディベートサロンを開設し学生に提供することにより、英語を使うことの精神的負荷を取り除き、学生の国際的な場への進出の促進を図る。

本学にはネイティブスピーカーの留学生が在籍しているので、彼らの力を活用して（講師としてアルバイト採用）、サロンを運営する。教員もサロンに随時参加し、議論の活性化を誘導する。単に日常会話を英語で話すだけでなく、テーマを設定してそのテーマに対して英語で意見を主張し議論を戦わせる経験を積むことを目的とする。

## 6 事後評価での総合評定

2. 9 ※審査会(教育担当副学長及び部局長構成)の審査員が行った4段階評価(4~1、4が最高点)の平均点

## 7 事後評価に関する教育改革推進事業提案審査会での主な意見

- ・テーマを設定して、議論しやすい環境にしており、また、事前にそのテーマを提示して下準備させることは、活発な議論のために有効であると考えます。
- ・外国人留学生を講師として雇用することにより、学部生徒のコミュニケーションが一般の講師に比し、身近であることから双方向性の交流の機会にもなったのではないかと思います。
- ・参加学生・院生の専門分野がやや偏っているので、今後、研究科全体の組織的な取組としての拡充を期待する。